

地層処分レポート

高レベル放射性廃棄物等の
地層処分事業について
ご紹介します。

NUMO
原子力発電環境整備機構

2022年 夏特別号

すっつ かもえない

NUMOは、2020年11月から、**北海道の寿都町と神恵内村において文献調査を実施**しています。また、**両町村で「対話の場」を開催**しています。

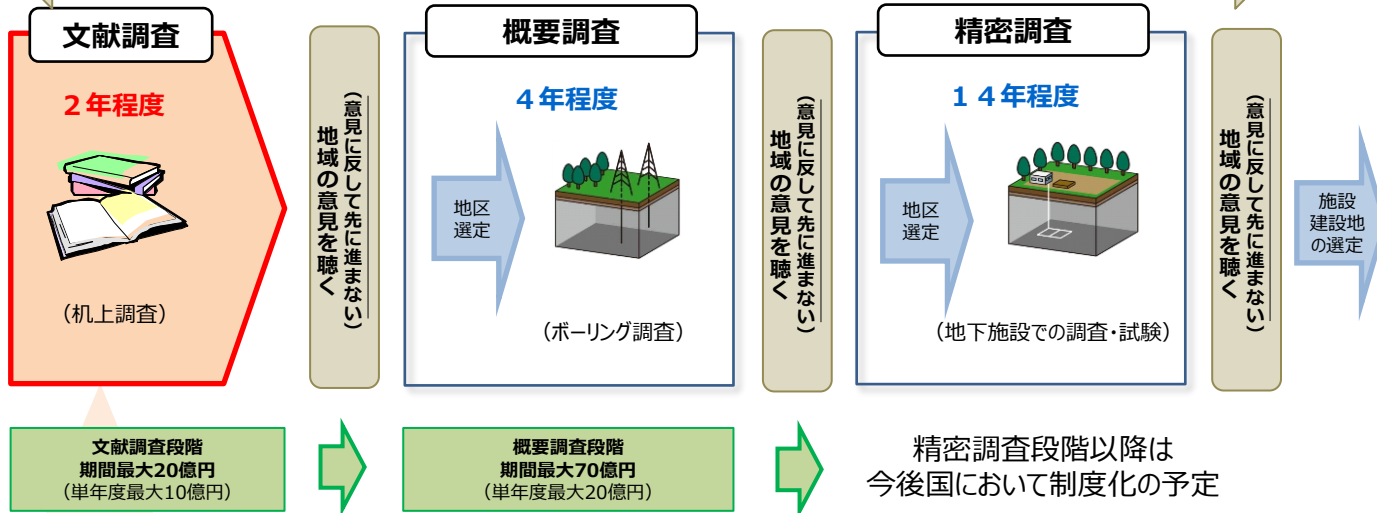
文献調査は、地質図や鉱物資源図等の地域固有の文献・データをもとにした机上調査です。ボーリングなどの現地作業は行いません。地層処分事業に関心を示していただいた地域に、事業をさらに深く知っていただくとともに、さらなる調査（概要調査）を実施するかどうかを検討してもらうための材料を集める、事前調査的な位置付けです。

本号では、文献調査をどのように進めてきたのかについてお知らせします。



処分地の選定プロセス

20年程度の調査期間中、放射性廃棄物は一切持ち込まない



(金額は地点毎)
電源立地交付金

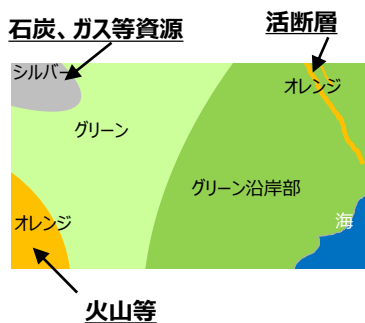
※地域には、長期間にわたって地域共生事業の成果をはじめとして、雇用や税収など、さまざまな波及効果が見込まれます。

文献調査の進め方

- 文献調査は、地質図や鉱物資源図等の地域固有の文献・データをもとにした机上調査です。ボーリングなどの現地作業は行いません。

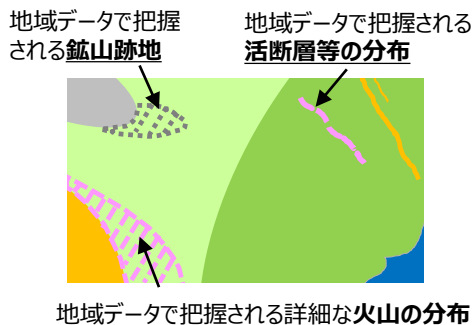
【科学的特性マップ】(全国一律に評価)

- ◆既存の公開された全国データを利用。
- ◆一定の要件・基準に従って、**全国地図の形で示したもの。**



【文献調査】(地域のデータによる調査)

- ◆全国データに加えて、**地質図等の地域固有の文献・データ**を利用。
- ◆明らかに処分場に**適当ではない場所を除外**。
- ◆**周辺の活断層等のデータも分析**。



「対話の場」「シンポジウム」を開催

「対話の場」は、地域の皆さまに、地層処分事業への賛否に偏らない議論をしていただき、その議論を通じ、議論に参加しない地域の皆さまにも広く地層処分事業について、関心を深めていただくためのものです。

2022年6月末までに、寿都町では10回、神恵内村では8回の「対話の場」が開催されています。このほか、神恵内村では「対話の場」や、村の皆さまを対象にしたアンケートで、「多様な専門家の話を聞いてみたい」というご意見を多数いただいたことから、村の皆さまを対象とした、専門家によるシンポジウムを開催しました。

寿都町

●「第10回対話の場」（2022年5月27日）

参加者から、「エネルギー政策に関するお話を聞いてみたい」との要望を受け、国（資源エネルギー庁）からお話をいただきました。

【お話の主なポイント】

- ・エネルギーの安定供給の確保に万全を期し、脱炭素の取組を加速させることを政策の方向性とした。
- ・安全性をすべてに優先し、世界で最も厳しい水準の規制基準に適合した原子力発電所の再稼働を進める。
- ・使用済燃料の「再処理」による、高レベル放射性廃棄物の減量や、資源の有効活用などの観点から、核燃料サイクルの早期確立を目指す。



（資源エネルギー庁 下堀友数 課長）

「対話の場」の配信映像
や資料はこちら



神恵内村

●「シンポジウム」（2022年5月29日）

伴英幸氏（NPO法人原子力資料情報室 共同代表）と、吉田英一氏（名古屋大学博物館 教授）のお二方の専門家をお招きし、シンポジウムを開催しました。お二方からは、地層処分事業の制度や技術に関するお考えをお伺いしました。



「シンポジウム」の
配信映像はこちら



●「第8回対話の場」（2022年6月9日）

第8回の対話の場では、シンポジウムを振り返り、参加者の皆さんの感想や疑問について話し合いました。

【主なご意見】

- ・交付金のためだけに文献調査をしている訳ではない。
- ・2町村以外にも手を挙げてもらわないと。

～よくあるご質問（文献調査地域でもよく聞かれます！）～

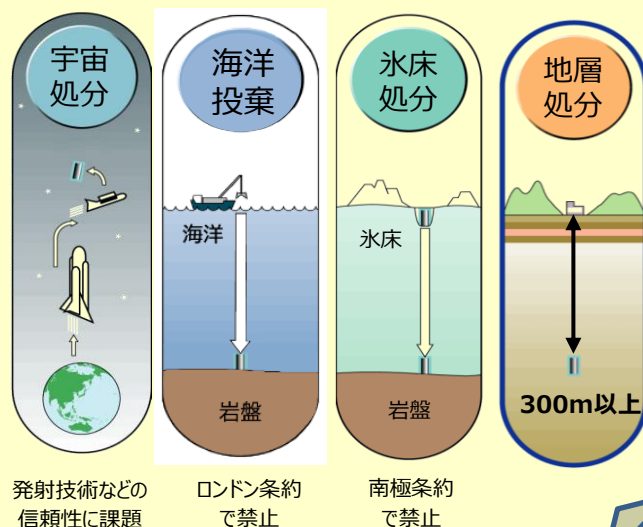
Q.なぜ地層処分が必要なのですか？

A.数万年という長期にわたって人間の生活環境に放射線の影響がでないようにするためです。

地層処分とは原子力発電にともなって発生する高レベル放射性廃棄物を、地下300m以上の深く安定した岩盤に閉じ込める方法です。

地下深くに適切に埋設することで、長期にわたって、わたしたちの生活環境に放射線の影響がないようにします。

これは国際社会で最も安全で実現可能な方法とされています。



NUMOでは、全国のできるだけ多くの地域で、地層処分事業に関心を持っていただき、文献調査を受け入れていただけるよう、引き続き取り組んでまいります！

